

Weekly report

MINKABU
THE INFONOID

株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区神田神保町3-29-1

今週の注目材料 = 米国の雇用者数は歴史的な減少へ

2020年5月4日

5月8日に4月の米雇用統計が発表されます。

前回3月分の雇用統計は、非農業部門雇用者数が事前予想の10万人減をはるかに超える70.1万人減を記録。2月の27.5万増からの急激な落差となりました。リーマンショック時の2009年3月につけた80万人減以来の減少幅となります。

雇用統計のマイナス自体が2010年9月以来のこと。今年に入って1月分、2月分と節目の20万をしっかりと超える好結果が続いていましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で状況が一気に変わったことを感じさせました。

失業率もほぼ完全雇用といわれた2月の3.5%から4.4%に急上昇しています。

雇用者数増減の内訳をみると広義の製造業が2月分の+5.7万人から-5.4万人に。なかでも建設業が+4.1万人から-2.9万人と厳しい状況に。一般的な製造業も+1.3万人から-1.8万人となっています。

それ以上に厳しいのがサービス業。外出制限などの影響を受けて小売業が+0.12万人から-4.62万人となっているのは、ある程度想像の範疇でしたが、特に目を引いたのが次の2業種。

教育及びヘルスケアが前回の+6.5万人から-7.6万人に。傾向自体は他と同じですが、同部門はリーマンショックなどで雇用がどこも減少する中で、プラス傾向を続け全体を支えた部門でした。教育部門でのストライキなどの影響で一時的なマイナスになることはありましたが、今回はヘルスケア&アシスタント部門が+6.61万人から-6.12万人に減っています。なかでも外来診療部門が4万人以上減っているのは大丈夫かと他の国のことながら思います。日本でも慢性的に人手不足感がありますが、米国でも雇用が増え続けている分野である介護部門も2万人弱の減少です。

数字的に驚いたのがレジャー及び娯楽部門。劇場などが基本的に閉鎖となっており、業種的に最も影響を受けやすいのは事実ですが、+4.4万人から-45.9万人と雇用減全体の2/3近くをしめています。

もう一つ、前回の数字を見るうえで大事なポイントがあります。

前回3月分の数字は状況が深刻になる前の段階ということですが。

雇用統計は月次データですが、計測自体は月を通じてではなく、基準日である12日を含んだ週のデータです。

WHOがパンデミック宣言を行ったのが3月11日。トランプ大統領が欧州からの渡航禁止を打ち出したのも同日。トランプ大統領はその際の演説で市場が期待した給与税の減免措置などに触れず、株安ドル安が大きく進行する展開となりました。その後の15日の緊急FOMCでの実質的なゼロ金利政策の再開なども含め、米経済の深刻さが強まったのが、3月の半ば以降。前回の雇用統計にはあまり反映されていないのです。

こうした状況を受けて今回の予想ですが、空前絶後となる2200万人減が見込まれています。リーマンショック時にもっとも雇用が減少した2009年3月はもとより、第二次世界大戦が終了し、一気に失業者が増えた1945年につけた195.9万人をも、10倍の単位で超えてくる数字となっています。

失業率も3月の4.4%から16.0%へ一気に上昇の見込み。リーマンショックの時でも失業率は基本9%台の推移で二けたに乗せたのは2009年10月の10.0%の一度。オイル

ショック時は失業率が恒常的に高めでしたが、10%を超えていたのは第2次オイルショックからの持ち直しに失敗し、複合不況に陥っていた1982年9月から1983年6月まで、最高でも10.8%ですので、16%という数字がどこまで大きいかがわかります。(なお雇用者数と違い、失業率は現行方式での記録が1948年からとなります)

先行指標であるADP雇用者数の予想も2000万人減となっているほか、週次の新規失業保険申請件数は4月12日を含む週までの4週間で2300万件を超えており、予想前後の数字が出る可能性は相当高そうです。

ちなみに米国と同時に発表されるカナダの雇用統計は、雇用者数が3月の101.7万人減から500万人減、失業率が3月の7.8%から20.0%と、こちらもかなり厳しい数字が見込まれています。

米国に話を戻します。2200万人という雇用者数減少予想ですが、米国全体の非農業部門雇用者数雇用者数が3月時点で約1億5179万人ですので、全体の約14.5%が失業した格好になります。

ある程度は想定済みとはいえ、米経済の深刻な状況が如実に示されることで、ドル売りが広がる可能性があります。なお、さすがにこれだけの大きな数字の変化だけに、誤差も相当なものになりそうで、予想値からの乖離にも要注意です。

山岡和雅 | minkabu PRESS編集部

1992年チェースマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行（旧ナショナルウェストミンスター銀行）移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後GCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ（現ミンカブ・ジ・インフォノイド）グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。（社）日本証券アナリスト協会検定会員 主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」ずばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。